

あだし野念仏寺の概要

あだし野念仏寺は、京都西部の嵯峨嵐山の奥にある奥嵯峨の山中に位置しています。この場所は古くから葬送の地や追悼の地としての役割を果たしており、この地区の名前は、はかなさを意味しています。真言宗の開祖である空海（774～835）が、この地に埋葬された人々の霊を祀るため、約 1200 年前にこの地区に寺院を創建したと言われています。その後、日本の浄土宗の開祖である法然（1133～1212）は、この寺院を、念仏と呼ばれる祈願の形式を修行する寺院へと転換させました。念仏とは、極楽浄土へ生まれ変われるよう阿弥陀如来の名前を唱えるものです。

あだし野念仏寺の最も注目すべき特徴の 1 つは、何世紀にもわたってこのエリアに葬られた人々の約 8000 の石仏・石塔を保存するための専用の空間である西院の河原です。境内には、見どころであるお堂や仏像の数々、大きなインド様式の仏舎利塔、静かな墓地、そして穏やかな竹林もあります。このお寺では、石仏・石塔に数千本のろうそくを灯す 8 月下旬の行事など、年間を通じて様々な供養や宗教行事を行っています。

あだし野念仏寺は、この地区に葬られた人々の霊を祀る供養の地ですので、この寺院を散策する参拝者には、静粛かつ礼儀正しくあることが求められます。